

「キャリア支援センターの取組について」が開催されました

実施報告

日時: 2010年11月15日(月) 12:00 ~ 12:30

場所: 東海大学湘南キャンパス
8号館3階プロジェクト会議室

司会: 尾崎由佳(チャレンジセンター専任講師)

内容: 1. キャリア支援センターの取組について
内藤 耕(キャリア支援センター次長)
2. 質疑応答



キャリア支援センターの取組について

われわれが現代社会を生き抜くためには、自分の人生について主体的かつ戦略的に意思決定をしていく必要がある。学生がそのような人生を歩めるよう、キャリア支援センターでは学生生活に対するモチベーションの向上、コミュニケーション力の強化、自己分析力の養成、卒業後のビジョン構築などを目的としたキャリア教育を実施している。

これらの目的に向けて、初年次からいきなり「働くこと」の意味について考えさせることはせず、高校生から大学生への移行を促進し、危機を乗り越える力（他者とつながる力・社会と向き合う力・将来を展望する力）を伸ばしていく教育を行っている。具体的には、学部を超えたクラス編成による授業を通じコミュニケーション力を養っている。

たとえば「キャリア設計1」の授業では、学生に「大学に入ってよかった」と実感させるとともに、大学生活での様々な可能性に気付かせ、モチベーションを高めていくことを目指している。「キャリア形成1」の授業では、グループで社会人訪問を行うことを通じて、業界や職業について学ばせるとともに、異世代とのコミュニケーションの訓練を行っている。訪問のスケジュール調整に苦労しているが、学生にとっては貴重な経験になっているようである。また「模擬面接会」を開催し、同窓生・企業人の協力を得て就職面接のデモンストレーションを行い、実際の就職試験に向けた対策を講じている。指導はキャリアコンサルタントの資格を持つ者が担当している。なお、指導者を対象にして徹底したFDを行うとともに、同一名の科目においては統一されたテキストおよびシラバスを用いることで教育レベルの統一を図っている。

内藤 耕(キャリア支援センター次長)



質疑応答

Q. 経済産業省が「社会人基礎力グランプリ」を開催していると聞いたが、どのような応募要件なのか。

A. 社会人基礎力の育成に関わる大学授業の取り組みを募集している（課外活動は除外）。チャレンジセンターの取り組みは、集い力・挑み力・成し遂げ力の育成を実施しているために要件をほぼ満たしていると思われるが、社会人基礎力との関係を明確に示す工夫が必要になると思う。詳しくは経済産業省のホームページ等で確認して欲しい。

Q. キャリア科目の履修者の数はどのくらいか？

A. 人数を70名に制限しており、どのクラスもおおよそ60名程度におさまっている。「キャリア形成」など希望者が多い科目の場合は90名近くになることもある。

Q. どのような学生が受講しているか？

A. モチベーションの高い学生が多い。しかし、やる気はあるもののコミュニケーション能力に欠けるといった問題が見受けられることもある。

Q. キャリアの導入教育はいつごろが適当なのか？

A. 教育の効果はすぐにあらわれるものではないので、1年生で教わったことが卒業近くになって効果を出すこともある。自分の経験上、2年生から3年生にかけて学生は大きく変化を遂げるので、その変化にあわせて教育内容も工夫していくことが必要だと思う。

Q. 就業力GPIに取り組む中で一番の課題は何だと思うか？

A. 課題ではないが、補助事業費を規程通りに適切に運用することに細心の注意を払っている。

Q. 社会人基礎力を育成することと、学生を育てることがどうつながっていると考えるか。

A. 社会人基礎力の育成は、卒業後の社会人生活だけに役立つものではなく、大学における研究・教育においても役立つ汎用性の高いスキルであると思う。大学は就職予備校ではないということを意識して教育を行っている。

Q. 卒業後、どのような職場でどのように働くのかという具体的なイメージを持たせることが重要なのではないか。

A. 確かに、具体的なイメージを抱かせることは学生の成長のために役立つと思う。ただし可能性を限定せず、どんな環境においても自分の能力を発揮できるような学生を育成していきたい。